

日退教発 19 - 27 号  
2019 年 9 月 3 日

日本退職教職員協議会  
県各単会 会長様

日本退職教職員協議会  
会長 竹田邦明

## 第4回日退教福島学習の旅

### 「福島原発事故から8年半－『福島』の今を福島で学ぶ」

東日本大震災・福島原発事故から7年半が過ぎ、依然として事故の収束作業は難航し、廃炉に向けて最も難関といわれる溶融燃料（デブリ）の取り出し作業は、極端に高い放射線に阻まれています。現在までデブリの全容を把握するには至っておらず、取り出しの技術の確立の目処も立っていません。

依然として続く「原子力緊急事態」のもとで、帰還困難区域を除いた、居住制限区域・避難指示解除準備区域では、除染作業によって年間被ばく量20mSv/年を基準に、それを下回る地域から避難指示が解除されています。しかし、20mSv/年という数字は、これまでの通常時の基準（1mSv/年）の20倍もあり許されるものではありません。避難指示解除に合わせて、帰還を強要するかのように住宅支援などの補償が打ち切られています。被害者は、高放射線量までのヒバクを覚悟して戻るか、補償が打ち切られても避難し続けるのかのきびしい選択を迫られています。そこには、政府の被害者に寄り添う姿勢が全くありません。福島原発事故の早期幕引きと被害の矮小化を図り、被害者を切り捨てようとする「棄民」政策と言わざるを得ず、許せません。

農林水産業が、大震災・東京電力福島第1原発事故で受けたダメージは深刻です。農業産出額は震災前の水準に近づいており、漁業は試験操業の対象魚種が増えてきた一方、農業は担い手不足、漁業は震災前の水揚げ量にはほど遠いというのが現実です。

震災と原発事故後、2012（平成24）年から福島県沖で取り組まれている試験操業は、県によると、17年の水揚げ量は約3285トンで、発生前の10年の約2万5914トンと比較すると、13%弱にとどまっています。

日退教は2016年、17年、18年に、脱原発社会の実現をめざす運動の一環として、現地福島県退教の協力を得て、「福島学習の旅」を実施してきました。今年度も現地退教の協力のもの第4回学習の旅を下記の要領で実施いたします。

各単会会員の皆様の積極的な参加を要請いたします。

## 記

- 1 日 時 2019年11月17日(日)～18日(月)
- 2 会場・宿泊 福島県飯坂温泉 公立学校共済組合飯坂保養所 あづま荘
- 3 行程(予定)

### 11月17日(日)

13:30 受付(あづま荘・学習会会場)

14:00～16:30 講演・学習会・内容検討中です

18:00 交流懇親会

### 宿泊

### 11月18日(月)

8:30～ あづま荘発 バスにて被災区域へ  
コース検討中です。

16:30 福島駅(予定)着 解散

- 4 募集人員 35名(先着順とさせていただきます)
- 5 費用 2万円

1泊3食(交流懇親会・視察時昼食弁当含む)、バス代・講師謝礼等全て含む。

- 6 申込・締め切り 10月18日(金) 別紙申込用紙にてFAXでお願いいたします。
- 7 その他 (1) 当日あづま荘集合となります。  
(2) 基本的に男女別相部屋となります。  
(3) 詳細は参加者に別途連絡いたします。

以上

## 第4回日退教福島学習の旅

「福島原発事故から8年半－『福島』の今を福島で学ぶ」

### 参加者申込み名簿

申し込み日 2019年 月 日

単会名	
連絡責任者	

参加者お名前 (年齢)	(〒) 住 所	電話《できれば携帯》	Fax
( )	(〒 )		
( )	(〒 )		
( )	(〒 )		
( )	(〒 )		

参加者申し込み締め切りは 10月18日(金) です(先着順とさせていただきます)

日退教 FAX 03-5275-2081